

MONROE リフレックスのポイント

純正部品よりも高性能で
リーズナブルな価格設定

微低速から高速域まで
最適な減衰力を発揮

「モンローマジック」
による上質な乗り味



モンロー
リフレックス

減衰力を制御するカギとなるリーフバルブのデザインを業界最多となる約50種も持つモンロー。その多彩なリーフバルブによってシリンダー内のオイル流量を緻密に制御し、車両ごとに最適なセッティングを行っているのがモンローのショックアブソーバのポイント。さらにはピストンスピードの変化に応じてオイル経路を微細にコントロールする「ツインディスクテクノロジー」を採用し、動き始め・微低速から減衰力を発揮。過度なスポーツ性は持たせず、全速度域に渡って高い安定性を確保した「しなやかな足」が特徴となっていて、走行性能と快適性をハイレベルで調和させている。



ボディ剛性の高い欧州車なら交換後は「走る」「曲がる」「止まる」の一挙一動においてその良さが感じられる。ハンドルを握っている時の安心感がグッと増した。

MONROE Reflex
IMPRESSION

微低速から減衰力を発揮
走りの鮮度が復活

なにより印象的なのは、乗り味に古さを感じない、という点だ。これは、一度作ったらそれっきりというのではなく、純正の市場評価を元に「独自のバルブチューニング」「モンローマジック」によるリセッティングを施しているからに他ならない。こういったこだわりからも、補修用ショックアブソーバで世界シェア・ナンバー1となるのも納得できる。モンローリフレックスは古いクルマでも走りの鮮度が甦る、魔法のショックアブソーバと言える。



ちょっと古い、
味のあるヨーロッパ車を、
さりげなく足に使う
素敵な生活

取材協力



A2ファクトリー KAWASAKI
TEL 044-833-8828
URL <http://www.a2factory.co.jp/index.html>
〒213-0012
神奈川県川崎市高津区坂戸3-16-23



取材協力して頂いた「A2ファクトリー」は、サブ車をメインに輸入車全般のメンテナンス・修理を得意とするショップだ。年式が古いなどコンピューター診断未対応の車種でも、腕利き職人たちの経験とノウハウによって、的確で最高のサービスを行ってくれる。天川社長に「純正部品よりリーズナブルなのにワンランク上の性能。固すぎない乗り味で快適性は非常に高い」とのこと。毎週土曜日にはクルマの無料診断を行うなど、輸入車オーナーをサポートしている。またタイヤや動くクーラーボックス「クルージン クーラー」などユニークな製品も販売するショップである。今回使用した車両はデモカーとして試乗できるので、ぜひA2ファクトリーに足を運んで試乗してほしい。

絶妙なセッティングで新車時以上の
快適性を実現するプレミアムショックアブソーバ

「モンローマジック」による
絶妙なバランスの乗り味は
純正を凌駕するしなやかさ

写真は劣化したショックアブソーバ。左はガスが抜け切り、ピストンロッドが正常に戻らない状態。ここまで劣化すると走っていてハンドルが取られるなどの悪影響も出る。



ショックアブソーバの交換を前提に、カートリッジ式の構造を採用している車種も多数存在。



世界中の自動車メーカーに純正部品(OE)を提供しているグローバルサプライヤーのテネコ社では、モンローブランドからプレミアムショックアブソーバ「モンロー リフレックス」をラインアップ。モンローブランドの歴史や技術、チューニングセンスが注ぎ込まれたショックアブソーバを走行距離17万kmオーバーの車両(サブ9-3)に装着して実力をチェック。



MONROE Reflex

モンロー リフレックス

テネコジャパン TEL:045-285-5221 URL:<http://www.monroejp.com/>

モンロー マックスリフト
価格:3,000円(税別)~

トランクやボンネット、リアウィンドウの補修用ダンパーもラインアップしている。ガスが密封された圧力シリンダーと高強度ピストンシールなどによって高品質で耐久性に優れ、上質でスムーズな作動を実現しているのが特徴。



劣化ダンパーではスムーズな開閉ができないうえ、ドアが落ちてくるなど危険。

部品であるがその認知度は低い。オイルや圧入ガスの漏れなどが主な劣化原因で、劣化するとクルマは踏ん張りの利かない不安定な走行状態になってしまう、事故につながってしまう危険性もある。また、徐々に消耗・劣化するため気が付きにくい。劣化した状態での走行は非常に危険なため、ショックアブソーバもタイヤやブレーキパッドなどと同じく補修部品への定期交換が必要となる。

テネコ社のデータによると、日本は欧米とは違いショックアブソーバの交換率が年1%以下と非常に低くなっている。これは劣化していてもある程度は走行できてしまったり、明確な交換基準が分からないためと考えられる。ではショックアブソーバを交換するタイミングはどう判断すればよいのか? テネコ社ではショックアブソーバは7万km交換を推奨している。

ショックアブソーバの交換部品は大きく分けると純正部品とアフター部品の2種類がある。しかし、アフター部品は「乗り心地が悪化」というイメージから避けるケースも多い。そこでテネコ社では「乗り心地が悪化」と

いうマイナスイメージを払拭し、純正部品よりもワンランク上質な乗り味で価格を抑えた「モンロー リフレックス」を補修用ショックアブソーバとしてラインアップ。

このモンロー リフレックスはチューニングやカスタムなどの「改造」とは違い、快適性や安定性、操作性の向上を狙った。改良をテーマに開発。乗り心地が固くなるスポーツ指向ではなく、快適性を高める「コンフォート」指向とし、低速から素早く減衰力を立ち上げることによって上質な乗り味を実現しているのが特徴。リーズナブルな価格設定としながら、純正部品以上の性能と品質、信頼性を備えた魅力的な補修用ショックアブソーバだ。

劣化したショックアブソーバを使っているのは本来の走行性能とは程遠く、折角の愛車も台無し。今の乗り味を良くしたいというユーザーはもちろんのこと、長年乗り続けている愛車や中古で購入した車両の補修としてモンロー リフレックスに交換してみてもどうだろう。新車時を凌駕する乗り味が手に入り、また愛車との新鮮なカーライフが送れるはずだ。

改造ではなく改良のためのショックアブソーバ

世界中の自動車メーカーに多くの純正部品(OE)を供給している大手グローバルサプライヤーのテネコ社。創業90年近くの長い歴史を持ち、世界初のショックアブソーバを開発したメーカーだ。テネコ社のショックアブソーバは高性能・高品質、さらには高い信頼性を備えていることから、北米車や欧州車、日本車など世界中の自動車メーカーが純正採用している。そんなテネコ社では純正ショックアブソーバを手掛けてきた歴史と経験、技術を活かして「モンロー」ブランドから補修用ショックアブソーバ「モンロー リフレックス」を販売している。

ショックアブソーバ(ダンパー)はエンジンやトランスミッションと同じく、走行性能の良し悪しに大きく影響する重要なパーツ。路面からの衝撃や振動による運動を吸収し、緩衝(減衰)させる役割を持っていて、乗り心地や走行安定性などはショックアブソーバの性能で決まるといっても過言ではない。そのショックアブソーバはタイヤやブレーキなどと同様に消耗